

世界の著名な特許にみる ————— 第35回

世紀の発明事業列伝

〈その思いつきが、時代を動かす〉

総集編 藤岡市助 編 (第1～5回)



芸術・科学・知財クリエイター・弁理士 (雅号)

大樹 七海

はじめに

今年に入り、「発明事業列伝」連載3年目の総集編として、エジソン編、田中久重(初代・二代)編をお届けしてきました。今回からは藤岡市助編に入ります。本号では、藤岡市助編の第1～5回をまとめて振り返り、来月号から続きを再開します。

藤岡市助編の初回(連載第27回)は、エジソン、田中久重父子、藤岡市助、山口喜三郎のそれぞれの違いと関係性を解説した本シリーズの人物の系譜を俯瞰した回です。きわめて重要な導入回であるため、初回の原稿の一部を公開することにします(公開予定先:大樹七海公式サイト [note https://note.com/ookinanami](https://note.com/ookinanami))

そして第2回(連載第28回)は、藤岡市助の生誕地・現在の山口県岩国市を舞台に、当時の時代背景とともに幼少期を描きました。藤岡市助は、尊王攘夷の嵐が吹き荒れる長州藩領・岩国で武士の子として生まれました。西欧列強からの侵略を防ぐべく、覚悟を持って日本の将来を案じながら、幼い頃から岩国領主の教育の元、修身と学問に励んでいきます。

藤岡市助の誕生翌年には安政の大獄が起こり、吉田松陰が処刑されます。6歳の頃には、攘夷派急先鋒の長州藩が先駆けて外国船に無差別攻撃を開始した下関事件が発生し、密航留学中だった伊藤博文・山尾庸三ら「長州ファイブ」は、西欧との技術力の差に衝撃を受けており、この報に愕然とします。のちに彼らが創設する工部省の工部大学校に、藤岡市助は3期生として入学することになります。

このように先見の明のある岩国領主の藩校教育、そして明治維新への流れから、藤岡市助という立派な人物が培われていく知の集積をみてとることができます。今後の取材では岩国を訪れ、さらに深く掘り下げる予定です。

第3回(連載第29回)では青年期の藤岡市助を描きました。上京後、東京に居を移した元岩国

藩主の元に身を寄せ、受験生活を始め、創立間もない工部大学校に合格し、卒業するまでの道のりです。当時の日本では近代的な理工学教育が始まったばかりで、その黎明期の様子も紹介しています。

日本初の電気通信工学教育は、ケルビン卿やエアトン教授といった世界トップクラスの科学者・エンジニアが、母国では十分に果たせなかった「実践重視のエンジニア教育」への夢と情熱を日本に持ち込んだことから始まりました。その精神は彼らの帰国後も藤岡市助らに受け継がれていきます。

第4回（連載第30回）は、藤岡市助の偉大な先輩や頼もしい学友といった、周囲の仲間の話を取り上げています。時代や新たな産業技術界をけん引していくのは、独りの力だけではありません。藤岡市助は、日本の科学界の興隆のために学会の創設などにも乗り出します。

第5回（連載第31回）は、藤岡市助が学問の世界から実業界へ踏み出す過程を描いています。しかし、当時の日本の実業界や経済状況、資本力を理解しないと、藤岡市助が直面した困難の大きさは見えてきません。そのため、近代日本の産業基盤形成について特別編を設けました。

藤岡市助は産業資本家たちの理解を得て、東京電灯株式会社の創立に尽力します。その後、世界の産業技術動向を調査するため初の海外渡航へ向かいます。そこでエジソンと出会い、藤岡市助の運命は大きく動き始めます。

次回からは、学者肌だった藤岡市助がどのように実業界へ転身し、エジソンが抱えた苦悩を自らも背負っていくのか、その道を描いていきます。

I. 連載ナビゲーションガイド

藤岡市助編のテーマとキーワードごとに整理した表を以下に掲載します。

【藤岡市助個人史】 地域×発明事業列伝 対応表

人生期	地域	テーマ	対応回
全体回		人生ダイジェスト	第27回
幼少期～少年期	山口県岩国市	生家・幼少期の環境 英語教育 武士の矜持・至善	第28回
青年期	東京	上京・受験勉強・卒業	第29回
壮年期	東京	教授・技術コンサルタント	第30回
続く	東京他	発明事業経営	次回以降

【背景・歴史】 特別編および各分野解説×発明事業列伝 対応表

テーマ	対応する連載回
エジソン・田中久重父子・藤岡市助・山口喜三郎：日本史・世界史・科学史からみる発明事業家の系譜	第27回
特別編 長州藩と岩国藩の歴史:毛利家と吉川家	第28回
江戸時代の養育・教育制度（岩国編）	第28回
工部省・工部大学校の歴史電気記念日の由来	第29回
幕末明治期の科学技術教育史	第29回
幕末明治期の科学技術教育史日本人による工学教育の始まり	第30回
特別編：日本の近代産業基盤形成	第31回
官営事業払い下げと創業	第31回